



特集

ジェンダーを考える

～男女共同参画社会の実現に向けて～

「男女共同参画週間記念事業」
オリンピックメダリスト 筑波大学教授 山口香さん講演会

6月23日から29日は、内閣府が定める『男女共同参画週間』

男女共同参画とは、「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」です。(男女共同参画社会基本法第2条)

ソウルオリンピック銅メダリスト、筑波大学教授の山口香さんを講師に迎え、講演会「スポーツから考えるジェンダー平等」を6月15日(日)、男女平等推進センターで開催しました。自身の経験やスポーツ界からみる男女共同参画の課題などについてお話しいただきました。

山口 香さん

筑波大学教授
柔道五輪銅メダリスト



「女だてらに」 テレビドラマ「姿三四郎」に憧れ、6歳から柔道を始めました。今は、ほとんど聞かれなくなりましたが、当時は柔道をやりたいと言ったら、「女だてらに」って周囲から言われたんです。まだまだ柔道というと男の人たちばかりで、道場も男の子しかおらず、女の子だからと特別扱いはしない条件で、男の子と一緒に練習や試合をしてきましたが、持ち前の負けん気で乗り越えました。

女子柔道の歴史をめぐる

柔道をつくった嘉納治五郎という人がいます。教育者であり、女性のスポーツ、柔道にも理解のあった人でしたが、女性には試合をさせませんでした。

技術や体力がなかったら怪我をする、体をこわす、それは本末転倒だということです。最初は体をつくること、強い精神を鍛えること、それは練習の中で十分果たせるという考えだったため、なかなか試合は始まりませんでした。

1978年、私が中学2年生のとき、世界柔道連盟や国際柔道連盟が重い腰を上げた結果、日本では、まず、女子だけの国内大会を開くことになったのです。

筑波大学柔道部 初の女子部員

筑波大学柔道部の初めての女子部員として入部しました。当時、そこまで女子柔道が盛んではない中で受け入れていただき感謝しています。女性が入ることで、更衣室などの環境を整えていただきましたが、私が常に言われたのは「一言多い」。とにかく、言わないと分かってもらえませんでした。

スポーツとジェンダー

日本では、100年以上の時をかけて、ようやくスポーツの世界では男女平等になってきましたが、世界には、女性だという理由だけで教育を受けられない、スポーツが出来ない国も少なからずあります。もっと世界中が男女平等を意識して、進めていかないと駄目ですね。

スポーツは「自己表現」の一つ

柔道やスポーツの良いところは一つの自己表現です。女性であろうと男性であろうと、障害者であろうと高齢者であろうと、自分がやりたいという気持ちを表現するというのが大事だと思いますし、それを後押しする社会であって欲しいです。やって失敗するならいいのですが、やれないという社会はおかしいです。自分から前に出て、自分から何かを表現していく、柔道やスポーツが教えてくれることだと思っています。



努力は報われない？

「努力が報われた」って、メダルを取った多くの人が言いますよね。しかし、私は「努力は人を裏切る」と思っています。勝つためには、その人がいた環境や、置かれた環境、そして経済的なことや運もあります。そういったものがすべて整ったからなのです。努力しても、報われない人もたくさんいます。しかし、自分が今いる環境でも、結果は大きく変わっていきます。今の自分に満足していくには、環境を変えて、自分自身が目の前の扉をこじ開け、前を向いて強く生きていくことが大切です。

一人ひとりが輝ける社会に

ジェンダー平等は、私たち一人ひとりが考えること、言うこと、行動することが次の世代をつくることに繋がっているということです。男性、女性だけでなく、一人一人が違います。私は女性ですが、メダリストという「特権」(強み)があります。皆それぞれに「特権」があると思います。どう活用出来るか考えましょう。一人一人が輝けるような、そして生かされるような社会に皆が力を出し合ってつくってできれば、すばらしい社会になっていくんじゃないかと思っています。

講演会を終えて

講演会では、山口香さんの歯切れがよく明快、そしてユーモア溢れる言葉からは、男性中心の柔道界やスポーツ界でも、自ら道を切り拓いて、声を上げ第一線で活躍されている女性のパイオニア的存在としての熱意と信念が伝わってきました。

来場者の声

- 楽しい時間の中でジェンダーを学ぶことができました。
- 育ってきた時代でしみついている男女を区別する意識が確かにあると思いました。立ち止まって男女平等の話を聞かないといけないと思います。
- 日常のことを話される中で、ジェンダーギャップをなくすために大事なことを教えてもらった気がします。